

報 道 発 表 資 料
平 成 1 8 年 3 月 1 日
気 象 庁

平成18年の冬に発生した大雪の命名について

気象庁は、平成18年の冬(平成17年12月～平成18年2月)に発生した大雪について、「平成18年豪雪」と命名しました。

問い合わせ先

気象庁 (03-3212-8341)

地球環境・海洋部 地球環境業務課 (内線 5104)

総務部 企画課 (内線 2248)

命名の趣旨

近年暖冬傾向が続いておりましたが、ひとたび大雪に見舞われると、長期間にわたって広範囲に様々な災害が発生いたします。今冬の降雪は近年まれな大雪となり、被害も甚大となっております。

気象庁としては、今回の命名により、今冬の大雪に関する様々な経験や貴重な教訓を今後に伝えることができればと願っております。当庁が発表する情報はもとより、多くの皆様にもこの名称を有効に活用して頂きたいと考えております。

現在も積雪量の多い状況は続いており、今後も雪崩、融雪による土砂災害、浸水災害等に対して厳重な警戒が必要な状況となっております。

今冬の降雪等の状況

- ① 北極域の寒気が11月中旬以降北半球中緯度に南下しやすくなり、12月から1月上旬にかけてその傾向が持続した。特に、日本付近では、強い冬型の気圧配置が断続的に現れ、山陰から東北にかけての日本海側で大量の降雪となった。
- ② 非常に強い寒気が断続的に流れ込み、12月は1985年以来20年ぶりに全国的な低温となり、東・西日本では戦後の最低記録を更新した。
- ③ 雪に関する観測記録
 - ・気象庁が雪を観測している339地点において、12月は10地点、1月は9地点、2月は4地点（計23地点）で観測開始以来の最深積雪記録を更新した。
 - 月毎の最深積雪の記録では、12月は106地点、1月は54地点、2月は18地点で記録を更新した。
 - ・各地の降雪状況から20年振りの大雪と言える（本日付け報道発表資料「冬（12～2月）の天候」を参照）。

被害に関する状況

- ① 屋根の雪下ろし、除雪作業中の事故等により、139名（2月28日現在、消防庁調べ）の死者・行方不明者が出ている。（参考：「昭和38年1月豪雪」による死者・行方不明者231名、昭和55年12月～昭和56年3月の大雪による死者・行方不明者152名、昭和58年12月～昭和59年3月の大雪による死者131名）
- ② 雪下ろしなどの除雪作業中の死者（全体の約4分の3）や高齢者の死者（全体の約3分の2）の割合が高くなっている、
- ③ 山間部の村落の孤立化により各地で住民の生活に大きな影響発生、都市部を中心に大規模な停電が発生、鉄道や飛行機等の交通機関への影響が繰り返し発生等。